

平成28年度 第1回人権教育ミドルリーダー育成講座

本講座は、これまで奈良県において培ってきた人権教育の取組を継承するとともに、県内各地域・学校における人権教育のさらなる推進・充実を図る中心となるミドルリーダーの育成を目的としています。

第1回講座では、児童生徒の自尊感情を醸成する集団づくりの取組を推進するための視点や指導方法の在り方、人権教育の実践力向上を図るための研修を実施しました。

1 日時及び会場 平成28年6月10日(金)
13:30~16:30
県立同和問題関係史料センター

2 参加者 第4期受講者 6名
第5期受講者 8名

3 日程及び内容
13:30 開講式
13:40 講義「人権教育の推進についての基本方針」の具体化
14:00 講義「自尊感情を育む集団づくり」
15:30 全体討議・まとめ



【講義】「人権教育の推進についての基本方針」の具体化

細井 司（奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課人権教育係）

- ・「人権教育の推進についての基本方針」の概要を世界人権宣言と関連づけながら説明。「人権教育推進プラン」に示された「3つの視点」と「4つの側面」について具体例も挙げながら講義を行う。

【講義】「自尊感情を育む集団づくり」

磯野 雅治（関西大学文学部教育文化専修）

- ・学校教育のすべての分野、日々の教育活動において、自尊感情を育むことが欠かせない。
- ・自尊感情とは欠点も含めた自己を肯定的に受け止める感情であり、他者の肯定的なまなざしによって育っていく。だからこそ、集団の質の高まりが重要な要素となる。
- ・日本の子どもたちの自尊感情の低さが目立つ。それは、ありのままではいけない子どもも社会のありようとも関連している。
- ・自尊感情を支える4つの感覚（「包み込まれ感覚」「社交性感覚」「勤勉性感覚」「自己受容感覚」）を育むためには、学級のありようと重ねて検証することが大切である。
- ・学級集団づくりには3つの側面（「担任として子どもとつながる」「子どもと子どもをつなげる」「地域や保護者とつながる」）がある。担任が子どもとつながるためには「共感的に聴く」「思いをめぐらす」「まるごと受け止める」ことを大切にしたい。その中で、自尊感情の源である「包み込まれ感覚」が育つ。
- ・子どもと子どもをつなげるためには、「人」「活動」「思い」がつながりの素となる。「つながりの素」を「つながり」に熟成させるには「しかけ」が必要。こうした取組の中で集団が高まり、互いを認め合うことで自尊感情が育つ。
- ・後進と共に取り組み、同僚性を育む中で、人権教育の大切さが伝わっていく。

<参加者の声より>

- ◇ 自分の属する集団が、素のままの自分を受け入れてくれる場であれば、どれほど子どもたちにとって幸せだろう。そんな集団での話し合いの中で、誰もがもつ人間としての弱さや脆さを乗り越えてどう生きていくかをそれぞれに考え、つかみ、互いに支え合って生きていく子どもを育てていきたいと感じた。
- ◇ 生徒と向き合い、様々な取り組みにも前向きな気持ちを持って向かい、教師同士で連携をとってことに当たる。その前向きに仕事に向かう姿を後進に見てもらい、また共に働き、自尊感情をしっかりと持った教師でありたいと思います。